



町への提言を発表する大学生。調査で町を訪れたときの感想も話していました

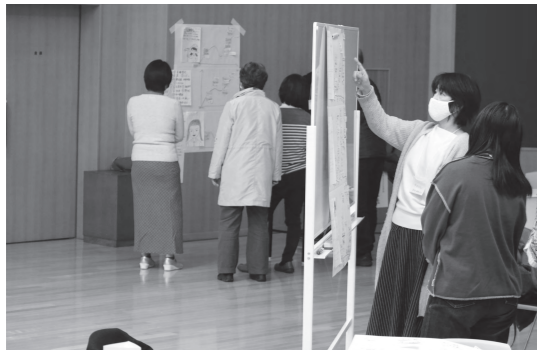
島根大学と地域づくりの共同研究を行う「飯南ラボ」の成果報告会として、飯南ラボフォーラムを開催しました。

島根大学の作野広和教授の研究報告の後、島根大学生が町への提言を発表。来島・小田真木地区の取り組み事例の発表もあり、参加者が耳を傾けていました。

報告後には、「とっておきの魅力を知る」をテーマに、来島交流センターに寄贈されたランドピアノを使った演奏会や、「飯南町のたたら製鉄」と題した講演もありました。

### まちの可能性を探る 飯南ラボフォーラム

3月13日(日)



グループごとに個性豊かな物語が完成。参加者一人一人が、自分の言葉で物語を話しました

来島交流センターで「ブランドメッセージプロジェクト」を開催しました。

3回目の今回は、グループごとに考えた「仮想の人物が飯南町で希望や野望を実現する物語」を参加者全員で共有。物語をもとに、まちの持つ雰囲気や力をメッセージにまとめました。

このプロジェクトは2月5日から開始。全5回でまちの雰囲気や力、未来を表す言葉「ブランドメッセージ」を作ります。(途中参加可)

■問合せ まちづくり推進課  
76・2864

### ブランドメッセージ プロジェクト3回目

3月19日(土)

●「プレゼント企画」  
「雑誌の付録抽選会」  
両館にある雑誌の付録を、抽選でプレゼントします。応募用紙に番号を記入し、応募してください。館内にポスターを掲示中。

●応募期間 5月12日(木)まで  
●抽選発表 5月15日(日)



ブックスタンドを使った小物入れ

●「工作教室」  
「親子でDIYにチャレンジ」  
日時 5月1日(日) 11時～12時  
内容 ブックスタンドを使った小物入れづくり  
場所 来島交流センター多目的ルーム  
定員 10組限定  
参加費 材料費実費(400円程度)

●「両図書館」  
「テーマ展示」  
「いざ！冒険の旅へ!!」  
テーマに沿った本を展示しています。気になる本があったら、手に取ってみてください。

●「中央図書館」  
「趣味の講座」  
「飯南町の草花・樹木の神秘」  
日時 4月24日(日) 14時～16時  
内容 身近な植物についてのおはなし  
講師 飯南町森案内人 荻野英明さん

●「第64回」  
「ふくもの読書週間」  
【期間】4月23日～5月12日  
【標語】「ひとみキラキラ本にこぼれんわ」  
こどもの読書週間中のイベントを紹介します。

## 楽しいいっぱい 図書館探検 飯南町立図書館

●中央図書館 76・2160 ●頓原図書館 72・0301



3.20・21  
日 祝



「県内の上手な同級生と一緒に、思い切りプレーできました」と鹿田さん(前列右から4番目)

### Eースナンバーを背負って 鹿田昌吾さんが 島根県選抜で準優勝

安来市で開催された「中海圏域少年野球選抜大会」に、鹿田昌吾さん(真木)が島根県選抜として出場しました。

この大会には、島根県選抜のほか、米子市選抜など中海周辺の4チームが参加。総当たり戦の結果、島根県選抜が準優勝(3勝1敗)に輝きました。

鹿田さんは「Eースナンバーの背番号1をもらってプレッシャーもあったけど、なんとか抑えられました。中学校でも野球を続けていきたいです」と話していました。

3.13  
日

### 道の駅をたすきで繋ぐ やまなみ街道サイクル「道の駅」でん

広島県と島根県の各道の駅を「たすき」で繋ぐ、サイクル駅伝「やまなみ街道サイクル」道の駅「でん」が開催されました。(全国初の試み)

当日は中国地方や関東地方などから128人が参加。尾道U2オーリーブ広場を出発し、広島県三次市へ向けて各道の駅を巡りながら、最終的に島根県の松江市役所を目指す、全長192キロメートルのコースを、約12時間かけて走り抜けました。

チェックポイントとなる各道の駅では、ご当地ならではのグルメを提供。



道の駅とんぼらでは、飯南町産コシヒカリの塩むすびと、舞茸そばを提供

3.31  
木

### 運動神経の土台をつくる 体軸スクール

子どもの姿勢づくりや運動神経の発達を促す「体軸スクール」が、来島交流センターで開催されました。

来島公民館の加藤郁海主事がインストラクターを務めるスクールには、子どもとその保護者などが参加。体の構造を学び、身体能力を測るテストをした後、体軸体操に励みました。

参加者は「体操後に運動能力を測ったら、体操前より数値が上がりました。楽しかったので、また参加したいです」と話していました。



「体軸を整えると、自然といい姿勢が身に付きます」と加藤主事。第2回も開催される予定です

3.28  
月



シリコンケースにカラフルなラメを敷き詰める姿は真剣そのもの。宝石石鹸インストラクターの清山久美子さんが講師を務めました

### 世界に一つの宝づくり 宝石石鹸をつくらう

キラキラで見た目もかわいらしい「宝石石鹸」を作るイベントが、赤名農村環境改善センターで開催されました。

当日は、町内の小学生とその保護者など26人が参加し、石鹸の香りなどを当てるクイズで盛り上がった後、自分の作りたい石鹸のイメージを紙に描写。イメージを参考にしながら、シリコンケースにラメや色付きの石鹸を入れて、思い思いの宝石石鹸を作りました。

このイベントは、赤名公民館とふれあいクラブ(赤名の住民グループ)が企画。